

## あ・と・が・き

日高の軽種馬育成調教場の利用頭数は、近隣牧場の馬房数の増加に伴い増える傾向にあります。また、去年は調教場利用馬2頭（ジョーカプチャーノ・ローレルゲレイロ）がGを3勝（NHKマイル・高松宮記念・スプリンターズS）するなど、活躍馬が目立ちました。なお、今月から諸般の事情により馬場使用料が値上げとなりますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

当センター研修生は、4月に入講以来基礎技術の習得に忙しく、10～11月にかけてやっと季節外れの「夏休み」が与えられ、全員が実家に帰省しリフレッシュしてきました。今月からはJRA育成馬での実践的騎乗訓練が始まり、研修の総仕上げに突入します。また、これから就職活動も始まります。昨今は就職氷河期と言われておりますが、当センター研修生の就職率は例年100%で、人材不足のこの業界に少しでもお役に立っているのではと思っております。（Y.H.）

「たづな」の欄には、JRAの昨春の定期異動で競走馬総合研究所（総研）所長に就任された藤井良和氏に、新たな生産地関連研究の潮流について執筆していただきました。総研は昨年創立50周年を迎えるとともに第147回日本獣医学会を宇都宮で開催し、わが国の馬科学の発展に多大に貢献しています。従来、総研主導であった生産地ニーズの研究が、生産地の皆さん自身が総研の協力を得ながら連携して解決するように方向転換しており、生産地における今後の成果が期待されます。

「調査・研究」欄では、強度の異なるウォームアップが酸素運搬に与える影響についてJRA総研運動科学研究室の向井和隆氏に解説していただきました。若馬の調教や健康管理に役立つものと思います。「科学の箱馬車」では雌馬の繁殖分野におけるカラードプラ超音波装置の臨床応用について、JRA日高育成牧場生産育成研究室の南保泰雄研究役に分かり易く解説していただきましたので活用していただければと思います。

「馬にみられる病気」シリーズでは、馬の筋について解剖組織学的あるいは生理学的なことを中心に解説しました。若馬の筋力向上や筋肉障害の予防に役立てていただければ幸いです。（T.Y.）